

平成30年度 2学期 学校自己評価

中津市立 沖代小 学校

学校の教育目標	楽しい学校・やりぬく子ども
重点目標	○ 学びを楽しむ子どもを育てる
	○ 仲間とともにやり抜く力をつける

評定判断基準	
A	達成率90～100%
B	達成率70～89%
C	達成率60～69%
D	達成率60%未満

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	評価	成果と課題、及び次学期に向けての取組	
1 学 期	学びを楽しむ子どもを育てる ○児童アンケートで「授業がわかる」児童90% ○国語・算数の単元テストで平均点が80点を超える。 ○各種学力定着状況調査において、全ての学年で基礎・活用とも目標値を5ポイント上回る ○全国学力状況調査で合計点が県及び国の平均以上となる（国語、算数）	学校	単元終わりや学期末に補充学習、活用問題学習の時間の設定を行う。 ①算数は各単元でレディネステスト、マイスタディタイムを行う。 ②単元テスト終了後ごとに60点以下の児童の補充学習を行う。	A	・児童アンケートで「授業がわかる」児童90%は、93%で達成している。 ・どの学年も単元終了後、マイスタディタイム、補充学習、個別学習を行い、学力定着につとめている。 ・宿題提出の徹底、やり直しを丁寧に取り組んでいる。 ・学年に応じた内容で、話し合い活動や「書く」表現活動に学年統一して取り組んでいる。 ・良い具体例などを示し、子どもたちにわかるように進めている。 ・ワークシートなどを使い、工夫して指導している。 ・「書く」表現活動については、主に国語で取り組んでいる。 ・宿題内容を工夫して、家庭学習が定着するように取り組んでいる。 ・学年通信で保護者の啓発を図った。 ・毎月、読み聞かせに取り組んでくれている。 ・現在の取り組みを全校同一歩調で進めていく。	
		学校	必要に応じ、1日に1回以上グループやペアで考えを話し合う活動を授業の中に設定する。	A		
		学校	国語、総合的な学習や生活科の単元の学習活動の中に、1回以上、学年段階に応じた「書く」表現活動を設定する。	A		
		家庭	進んで行う家庭学習の習慣づくり	学習の手引きに沿った主体的な家庭学習の習慣の定着（低30分、中45分 高60分）		A
地域	学習サポーターやボランティア活動の充実	どの学年にも読み聞かせや学習サポーターとしてガキに1回以上参加する	A			
1 学 期	○学期毎のアンケートで「学校のきまりを守っている」児童が90%以上 ○児童アンケートで「自分にはよいところがある」児童80%	学校	学校のきまりを守って生活していく態度とあいさつや「あすなろそうち」の指導を行う。また、毎月学年で定着の進捗状況を確認したり定着をはかる取り組みについて見直したりする。	A	・児童アンケートの結果で「学校のきまりを守っている」児童が90%、「自分にはよいところがある」児童80%で、達成指標に達している。 ・帰りの会で毎日反省し、継続的に指導しているクラスが多い。 ・意識的に機会を設けて、スリッパの状態を子どもたちに確認し、そろえるように意識づけている。 ・学年会で目標の確認を行い、学年で指導の内容を統一して行っている。 ・縦割り班で褒められた内容をクラスで聞き、クラスで認め合った。 ・縦割り班の反省で、名前を挙げて褒める活動をきちんと行っている。 ・学年通信であいさつのことを記事し、保護者の啓発を図った。 ・見守り隊の方、地域の方の聞き取りによると子どもたちとよく挨拶を交わしている。	
		学校	児童の自己存在感が高められる教育活動の実践	異年齢集団の中でも、自己存在感が高まるように縦割り班清掃の時にほめ合う取組を行う。		A
		家庭	「あいさつプラスワン」の取り組みを進める	進んであいさつする姿を子どもに見せる		B
		地域	「あいさつプラスワン」の取り組みを進める（見守り隊の結成）	登下校の際に子どもたちに「おはよう」「おかえり」などの声かけを実施する。		A
	○体力調査のD、E層の児童2割以下	学校	運動量のある体育授業の実践	体育の授業全体の7割程度は、児童の運動量を確保する。	A	・児童の運動への関心は高まっていて、運動能力の向上につながっている。 ・授業の導入、準備を工夫し、運動量を確保した。 ・指導のポイントを的確に行い、間が開かないように運動量を確保した。 ・ハードル走やバウンドボールを休み時間にも行えるように場の設定をした。 ・休み時間に、体育で取り組んだ活動をする子が増えてきた。 ・学年通信で睡眠、インフルエンザなどの記事を掲載し、保護者、児童の意識を高めた。 ・クラスで時期に合わせて保健指導を行った。 ・学年通信で生活習慣のことを記事にし、保護者の啓発を図った。 ・定期的に見守り、交通指導を行ってくれている。 ・達成指標に『学期毎の児童アンケートで「運動が好き」と答える児童が90%』の項目を設ける。 ・2学期に行った体育主任等による指導のポイント、安全面の配慮等実践講習をこれからも必要に応じて行い、教員の指導力を高めていく。
		学校	運動環境の充実	学期に2回程度、体育の授業と運動させた運動の場を設け、運動の日常化につなげる。	A	
		学校	健康・安全に対する意識の向上	睡眠、病気に対する予防などの保健指導を行う。（通信、集会、学級指導）	A	
		家庭	健康・安全に対する意識の向上	規則正しい生活習慣を身につけさせるため、早寝早起きをさせる。	B	
地域	安全に対する意識の向上	「沖代校区見守り隊」による登下校の見守りと交通安全指導を行う。	A			